

Welcome!



伊藤副館長 丹羽館長 寺林副館長



# 香川大学 博物館

## ●香川大学博物館DATA

香川県高松市幸町1-1  
電話／087-832-1300  
開館／10:00～16:00  
休館／日曜、月曜、祭日  
年末年始(12/28-1/4)  
展示替えの期間

オープンキャンパス、香川大学祭、未来からの留学生、かがわけん科学体験フェスティバルの開催中は開館します。休館日情報はHPにも掲載。

<http://www.museum.kagawa-u.ac.jp/>



図書館帰りや下校途中に  
ふらっと立ち寄れる博物館

## KEYWORD

### 〔香川大学博物館〕

香川大学で蓄積された知的財産を収集・保管・研究するために設立された、四国初の大学博物館。その内容は常設展や企画展、公開講座などで広く展示紹介されている。企画展【昆虫のふしぎ】は9/20まで開催し、8/10～18は休館。



**あ** たりまえですが、研究に学術資料は欠かせません。研究が専門的になるほどその量は増え、管理は難しくなりますよね。

香川大学が研究室ごとに保管している標本や発明品などの学術資料は幸町のキャンパスだけで2万点を超えると言われています。では研究者が退職して引き継ぐ研究者がいない時、それらの資料はどうなるのでしょうか？

実は研究者が自宅に持ち帰って個人で保管するか、廃棄してしまう例が多いのです。

学術資料そのものの大切さはもちろん、何より知識が継承されないこと、そして研究者の努力してきた証が消えてしまうのはあまりに勿体ない！

そこで大学にある学術資料をデータベース化し、散逸や破損のおそれがある場合は管理保存することを目的とした博物館が2006年に発足。館長に考古学が専門の丹羽佑一教授、副館長に地質学が専門の寺林優准教授と昆虫生態学が専門の伊藤文紀教授が任命され、今年の春、キャンパス内に四国初の大学博物館が誕生しました。

この博物館は一般にも公開されており、入りやすいように教育学部の正門（北門）すぐの建物の1階が選ばれています。バリアフリーの館内に展示されているのは、6学部8大学院研究科から集められた学術資料たち。

「ここを見れば、各学部でどんな研究が行われているのかが分かります。地球最古の40億年前の岩石や生命の起源を示す35億年前の岩石から、これから打ち上げる人工衛星の模型まで、展示

してある年代も幅広いものがありますね。」  
と寺林先生。各学部を代表するバラエティ豊かな展示の中には、黒毛和牛の全身骨格標本なんてユニークなものも。農学部の研究室が、一頭丸ごとおいしくいただいた牛の骨を組み立てたのだと丹羽先生が教えてくれました。

「恐竜の骨を展示する所は沢山ありますが、黒毛和牛の骨を置いているのはウチくらいでしょう（笑）。美術品や高価なものは残しやすいが、身近なものに残らない。それを残し、生活を支える物の中にある面白さを知っていただくことも大学だからこそできることです。」

学術資料の把握が進んだ結果、興味深い資料も次々と発見されています。例えば…と伊藤先生が取り出したのは、香川に生息していた昆虫の標本。1980年代から昆虫学教室の代々の教授が保管されていたものだそうです。

「当時はありふれた存在だったこれらの中に、実は今ほとんど見つかからない種がいます。この膨大な標本は自然環境の変化を見る上でたいへん素晴らしい資料ですよ。」

この標本は、第2回企画展「昆虫のふしぎ」（9月20日まで）でも展示中。博物館には学生だけでなくアマチュア研究者や一般の人、そして進路を考える高校生や小中学生も訪れ、標本や資料に目を輝かせています。博物館は私たちと知の世界をつなぐドアとなり、今、大学をうんと身近な存在へ変えようとしています。